

きいちゃんの いきいき支え合い通信

この通信では、地域の「顔が見える」関係の中で、日常生活の困りごとを助け合い、支え合う活動が進むことを願い、生活支援に関する県内の先進事例等を発信していきます。



第18号

令和6年1月
和歌山県
長寿社会課

協議体活動紹介 串本町「^{あざし}ななしの会」

串本町の安指地区では第2層協議体として「ななしの会」という住民のみなさんが集う交流の場があります。

今回、生活支援コーディネーターの地域訪問がきっかけで発足した「ななしの会」を訪問し、もともと地域のつながりが強い地域だからこそ可能な様々な取組について取材しました。



ななしの会の皆様

「ななしの会」立ち上げから今までの取組

きっかけは、SCの中さんと竹中さんが安指地区を訪問した際に「区民館がいつも空いていてもったいないと感じている」という相談を受けたことです。それなら区民館を活用して、まずは地域の方々と「お茶のみ会」をやってみよう！というところから「ななしの会」がスタートします。



お茶のみ会の様子

その後、お茶のみ会を続けるうちに何気ない会話から様々な企画が生まれ、住民のみなさんとSCとが一緒に取り組む、地域づくり・支え合いの仕組みづくりと言える取組が展開されています。

詳しくは次ページ

会の名称については、決めようとしたけれどもなかなか決めきれずに「ななしの会」となったそうです。みなさん「今となってはええ名前をつけたと思っています！」と和気あいあいとおっしゃっていました。

県からのお知らせ

- 県では「生活支援専門アドバイザー派遣事業」を実施しています。是非ご活用をお願いします。
- 皆様の取り組みを紹介させていただきます。県職員が取材に伺いますので下記までご連絡をお願いします。
連絡先：和歌山県長寿社会課 電話：073-441-2521

令和5年度から体制強化！ 串本町の生活支援体制整備事業

串本町では、第1層SCの中さん、第2層SCの竹中さんと井沼さんの3名が中心となり、生活支援体制整備事業を進められています。令和4年度までは中さんと竹中さんの2名体制でしたが、令和5年度から新たに井沼さんが加わり、新たな体制で「つながり作りによる支え合いの仕組みづくり」に奮闘されています。



第2層SC 竹中さん
第1層SC 中さん
第2層SC 井沼さん

第1層協議体の取組

串本町では令和2年に第1層協議体が立ち上がりました。第1層協議体で初めに取り組んだことは、現在は県生活支援専門アドバイザーになっている高林氏を迎えての学習会。その後、第1層協議体のメンバーから地域で自然に集まっている方々を教えもらい、そこにSCが訪問する取組を開始しました。その訪問先が今では第2層協議体の立ち上げにつながっています。現在は第1層協議体のメンバーが一丸となって地域交流マップの作成に取り組まれているそうです。

第2層協議体の立ち上げに向けて

モデル地区として特に重点的に取組を進めたのが、安指地区と田原地区です。安指地区は「ななしの会」を中心に交流を進め、田原地区では地区フォーラムを開催するなど、地域に合わせた取組を竹中さんが中心になり進めています。一方でその他の地域での取組としては、井沼さんを中心として新たなサロンの立ち上げや、既存のサロンとの交流を積極的に進められています。体操サークル「ハーモニー」では井沼さんが参加者のみなさんに溶け込んで話を伺っていました。



地区フォーラムの様子



ハーモニーの皆様



「ななしの会」の様々な取組

ココがすごい!

「ななしの会」では、お茶のみ会等での何気ない会話から出てきたキーワードがもとに様々な企画が生まれ、支え合いの仕組みづくりまで発展されています。

地域を知る「さんぽ会」

お茶のみ会の会話の中で出てきた一言「実は地域のことを知ってるようで知らないよね」から始まったのが、さんぽ会の企画です。毎回S Cの竹中さんが「地域のことを知る」ことができるルートを設定し、みんなで一緒に歩かれています。なんと長いときは1.5kmも歩くとのこと。実際、今まで遠くてなかなか訪問できなかった地域の炭焼き小屋を改めて訪れたり、移住者(右欄参照)との交流につながったりと、さんぽ会を通じて様々な地域資源を発見、その後の取組に展開させています。



さんぽ会の様子

「安指音頭体操」を開発

お茶のみ会で「健康づくりがしたい」という話題が出たことがきっかけで新たに作った体操が「安指音頭体操」です。体操自体はS Cの中さんがP Tに依頼して作っていただいたのですが、合わせる音楽は「ななしの会」から、もともと地区の盆踊りで使われていた「安指音頭」の提案がありました。

「ななしの会」メンバーが持っていた音源を活用し、ドローンまで使ったの撮影を行い「安指音頭体操」の動画が完成したそうです。動画は公民館でのお披露目会で公開。「ななしの会」では毎回「安指音頭体操」で体を動かしています。



「安指音頭体操」撮影の様子

移住者のAさんから見る安指地区

「ななしの会」には都会から移住してきたAさんが参加しています。

Aさんに安指地区のことを聞くと「この生活では人の温かさを感じる。自分を受け入れてくれるし、なにより自然とできている助け合いが本当にすごいことだと思う。今後も大切にしていきたい。」とのこと。実際、Aさんは力仕事を手伝うかわりに、夕食のおすそ分けをいただいたり、お風呂を貸してもらったりしているそうです。



移住者 Aさん

移住者のAさんが「ななしの会」に入るまでの経緯

きっかけはやはり「ななしの会」の会話からです。

「どうやら移住者がいるみたい」と話題になり、まずはS Cの竹中さんがAさんの自宅付近をさんぽコースに設定しました。

そして、さんぽ会で実際にAさんに会って話をしてみると、都会から移住してきたことや音楽活動をしていることがわかったそうです。

そこからは、歌が歌えるのであればとたくさんのリクエスト曲をお願いしてコンサートを開催。コンサートに参加していた方がAさんを夕食に誘い、Aさんはスマートフォンの操作や契約プランのことを教えるなど交流を深め、自然と「ななしの会」に参加。今に至っています。



コンサートの様子

生活支援体制整備事業として考えれば、S Cが地域の声を聞き、第2層協議体のみなさんと一緒に地域資源を訪問することにより、新たなつながりが生まれ、それが支え合いの仕組みづくりに至った事例といえます。

メンバーのみなさんに「ななしの会」への想いを伺いました



安井さん

メンバーには認知症の症状がみられる方もいるが、この会を楽しみにして来てくれている。今後もみんなで楽しく話ができたらいいなと思っている。町広報で取り上げられ、町なかで声をかけられたことがとても嬉しかった。



上田さん

みんな自然と集まってくれて、みんなで意見を言い合って、方向性が決まってくるところがこの会の良いところ。この会ができて世代の違う方々を知ることができ、出会ったときに声を掛けやすくなった。



山崎さん

毎回、おやつを何にしようか考え、作って持ってくるのが楽しみになっている。(取材日はなんとお寿司でした!) 地域の方が送り迎えをしてくれるから参加できている。感謝している。